
強がり

和歌奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

強がり

【Zコード】

N4511A

【作者名】

和歌奈

【あらすじ】

半年程の片想い、別れの場面です

あの頃に戻りたいなあ…

君の働いているバーへ行けば、その笑顔をいつだつて見れてたのに。最初の頃は、何とも思つてなかつた。でも会つ度に、どんどん惹かれていたの。お店に行くのが楽しみになつて仕事も頑張つた。嫌な客の前でだつて、君の顔を見れると思えば頑張つて笑つていられた。

「店終わつたら飲みに行こ」「う

つて、初めて誘われた時は本当に嬉しかつたよ。

「お酒強いね」

つて、君は言つてたけど本当は強くなんかなかつたんだよ。少しでも長く一緒に居たくて、何回閉店まで粘つただろう…。私がこの街を出るつて決めた頃、君もバーを辞めるつて聞いた。本当に偶然だつたけど、少し嬉しかつた。

「一緒に卒業だね」

つて笑い合つたね。

でも、君の方が2週間くらい早く辞める事になつて、少し寂しかつた。

だから最後の日は絶対に行かないつて決めて、ワザと予定も立てた。でもね、やっぱり行つてしまつた。

雨も降つて、傘なんて持つてなくて、ビショ濡れになつてお店に入つた。

本当バカだつたね。

自分で少し恥ずかしくなつて笑つてしまつたのを覚えてる。何でコンナに君の事好きになつたんだろう…

前は、お店に行けばいつも居たから当たり前になつていたけど、今では電話を掛ける事さえも躊躇してしまつ。

飲みに行ひつて誘うのもためらひてしまつ…

後10日位で私もこの街を出るけど、色々とあつたけど、今ではこの街も悪くなかったなあ…君に出会えて、恋をする事が出来たから。変なプライドや強がりで言えなかつた言葉を、明日貴方に言つね、ちゃんと田を見て

「好きです」つて…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4511a/>

強がり

2010年10月14日12時02分発行